

トミタテクノロジー株式会社

農業界のルビー？ パプリカ、トマトに勝機あり



農業のIT化が近年、叫ばれるなか、トミタテクノロジーが挑戦してきたのが、コンピュータによる環境制御が整った植物工場だ。しかし、従来型の植物工場とは一線を画したその施設は「大規模な施設園芸」といったほうがいいかもしれない。屋外の太陽光、地熱、雨水などを上手に利用しながら、省エネコントロールができるため、運営コストも削減できるように計算がされている。

「作るのはトマト、パプリカが中心」

そう言い切る富田啓明社長には、ビジネスチャンスを見据えた戦略があった。「パプリカは、9割を輸入に頼っているんです。国産で作るのは技術的にも非常に難しい。もともとオランダで品種改良されたトウガラシの仲間ですが、だったらオランダに行けばノウハウがつかめる。そう思ってオランダに行って、現地の歴史あるメーカーに直接技術提携の交渉をしてきたんです」

パプリカはスペイン料理などにもよく使われる人気野菜だが、その多くは韓国産。また他にも高リコピンの機能性トマトなど、従来の農業では作れない野菜を作ること、収益を上げ、儲かる農業を目指している。

太陽光、地熱を使った植物工場で、攻めの農業

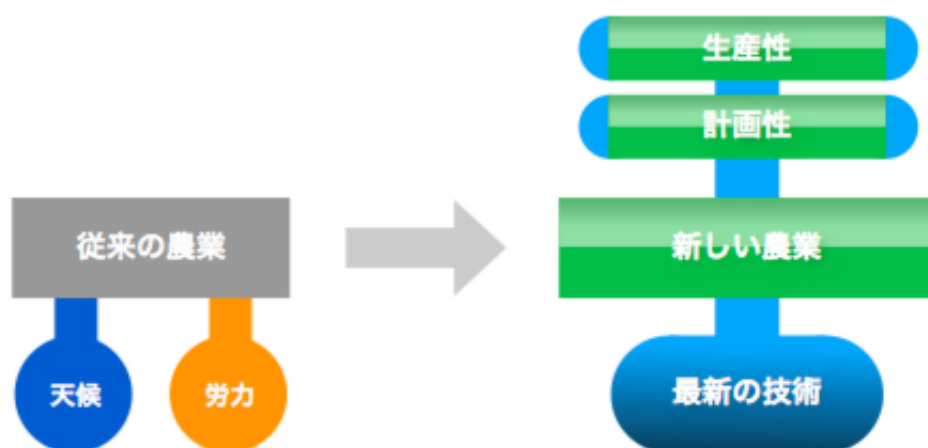


「もともとうちは、富田鐵工所とって、耕耘機や、商店街のアーケードなどを作っていたんです」

昭和 22 年創業の歴史ある会社が、アーケード作りから、ガラスの温室作りへの転換を図ったのは先代のとき。富田啓明社長の代になって、アグリビジネスに特化した仕事を始めるようになった。

種の販売、外食用トマトの開発から大規模施設園芸まで、太陽光を使った植物工場では温度、湿度、養液などすべて自動コントロール。それによって収穫量も 3、4 倍に変化したという。LPG、地熱や蓄熱タンク、そうした最新技術も取り入れながら省エネ、省コストを実現。大規模施設園芸では企画、施工から技術指導、運営サポートまでを行う。

「攻めの農業とは何か。日本の農業はいま、大きく動くときです。そこに向かって私たちも動いていかなければと考えています」



会社概要

トミタテクノロジー株式会社

代表取締役社長：富田 啓明

本社：横浜市金沢区福浦 1 丁目 1 番

横浜金沢ハイテクセンター テクノタワー16階

TEL : 045-783-6161 (代表) FAX : 045-782-1815

設立：1947年3月

事業内容：大規模施設園芸の企画・設計・施工、技術支援

URL : <http://www.tomitatechnologies.com/>